

宮本百合子 小説家。女性の自立扱う名作「伸子」書き、(共産党)の宮本顕治と結婚、獄中の夫を支えながら創作し、早世。

みやもとゆりこ

Bushidou・1899 = 東京小石川で、長女に生まれる。父はのち著名になる建築家中条精一郎・母は西村茂樹の娘葎江。

恵まれた環境に育ち、

日露戦争終・1905 = 6歳 :

アサヒ 創刊・1908 = 9歳 :

大逆事件判決1911 = 12歳 : 東京女子高等師範学校付属高等女学校に進学し、

明治天皇没・1912 = 13歳 :

民本主義・1916 = 17歳 : 卒業。*日本女子大英文科予科に入学するが、一学期で中退。祖母の住む郡山開成の農村の窮状を見て、白樺派風の人道主義的な中編「貧しき人々の群」を発表、坪内逍遙の推薦で{中央公論}に掲載され、天才少女として評判となる。

ロシア革命・1917 = 18歳 :

本格政党内閣1918 = 19歳 : 父に連れられアメリカ留学、

原敬首相暗殺1921 = 22歳 :

日本人で中年の古代イラン語学者と結婚するが、

護憲三派圧勝1924 = 25歳 : 4年で破局し、帰国。湯浅芳子と共同生活に入り、この不幸な結婚生活を描いた長編「伸子」の発表開始、

円本時代始・1926 = 27歳 : *長編「伸子」を完成。近代日本文学の第一級の作品となる。

金融恐慌・1927 = 28歳 : 湯浅芳子とソ連に留学。

海軍軍縮条約1930 = 31歳 : 帰国すると、日本プロレタリア作家同盟に参加、

満州事変・1931 = 32歳 : 日本共産党に入党、日本プロレタリア文化連盟婦人協議会の責任者となり、党员宮本顕治と知り合って、

五一五事件・1932 = 33歳 : 結婚。

国際連盟脱退1933 = 34歳 : 「一九三二年の夏」。夫が検挙され、以後、獄中の顕治を獄外から支えながら、

帝人疑獄事件1934 = 35歳 : 「小祝の一家」、評論「冬を越す蕾」、

芥川直木賞始1935 = 36歳 : 「乳房」、

日中戦争始・1937 = 38歳 : それまで中条百合子の名で書いてきたのを、宮本姓にするなど、卓抜した文学的抵抗を示す。

第二次大戦始1939 = 40歳 : 「杉垣」、

日米開戦・1941 = 42歳 :

自らも検挙投獄が7回にも及び、内務省の執筆禁止令や検事局の再度の取調べを受け、心身が消耗して健康を損ね、

年金+総武装 1944 = 45歳 :

敗戦・1945 = 46歳 : *重病で出所後に敗戦を迎える。その後も、新日本文学会を組織するなど多面的な活動の中、

新憲法公布・1946 = 47歳 : 「風知草」、

新憲法施行・1947 = 48歳 : 「播州平野」、長編「二つの庭」、

女性の思想形成が社会運動につながる「伸子」からの特色を一貫させて、

朝鮮戦争始・1950 = 51歳 : 長編「道標」が完結した直後、

独立回復・1951 = 52歳 : 早急性の脳脊髄膜炎菌敗血症で、没した。